

★子の思い

家族で楽しんだだけのほり

各務原市立稲羽西小学校

二年 宇野瑚伯

ぼくのおばあさんの家の近くに、たけのこがとれる山があります。四月の休みの日に、お父さんと弟でたけのこほりに行きました。

お父さんが、「まわりの土をどけて、たけのこが出てきたら、下の部分をおもいっきりたいてほるんだよ。」と教えてくれました。「なるほどな。」と思いながら、ぼくもお父さんが教えてくれたようにやってみました。土をどけるとはできたけど、力がたりなくて、たけのこはぬけませんでした。お父さんがやると、かるくぬけて、「さすがお父さんだな。」と思いました。

それからは、ぼくと弟がたけのこを見つけ、お父さんがそれをぬくように、やくをきめました。たけのこは、全部で十二本とれて、みんなあせびっしりでした。とれたてのたけのこを見て、「三人

でがんばったから、こんなにとれたんだ。」とうれしくなりました。

ばんごはんは、お母さんが作った、たけのこのフルコースでした。とれたてしんせんなたけのこで、さしみ、天ぷら、いためもの、たけのこごはんを食べました。ぼくは、たけのこの天ぷらが、さくさくで一番おいしかったです。家族みんながえがおになりました。たけのこのおかげで、家族のみんながやくわりをもてて、とてもうれしい一日になりました。

家族でがんばった歌舞伎

大野町立南小学校

五年 田中碧乃

私は、今年の五月に「揖斐まつり」で歌舞伎をやることになりました。

五月三日は、揖斐川町の「はなもも地域交流センター」で公演をし、五月四日、五日の揖斐祭りでは、三輪神社で歌舞伎を披露しました。一日三公演やりました。たくさんの人が見に来てくれて、緊張したけど、本当にうれしかった

です。

揖斐子ども歌舞伎は、合計十四人でやります。女の子八人、男の子一人、黒子が三人。三味線と義太夫が一人ずつです。私は、「尾上」という人の役でした。5月に発表するために、十二月頃から、練習を何回かやりました。「尾上」役は、ほぼ全部の幕で出番があり、合計一時間くらい正座をしています。足がしびれるほど正座をしているので、すごく疲れます。でも、この役は、まだ、やったことのない役がらだったので、きちんと練習して成功させたいと思いました。

台詞や動きを覚えたりするのが、本当に難しく、師匠さんに何回も注意されました。練習を重ねるうちに、できなかつたことができるようになりました。でも、私だけががんばったのでありません。

おばあちゃんとおじいちゃんも、いつも歌舞伎の送り迎えをしてくれました。学校が終わるとすぐに練習に行かなくてはいけないし、公演前は、毎日練習があるので、とても忙しかったです。

美容師のお母さんは、いつも着物を着させてくれたり、髪を整えてくれたりするだけではなく、師匠さんに叱られて落ち込んでいる私をはげましてくれたり、時には、仕事の合間に、送り迎えをしてくれたりしました。

お父さんは、お母さんが仕事で忙しい土曜日や日曜日の歌舞伎の送り迎えをしてくれました。

お父さん、お母さん、おじいちゃん、おばあちゃんが、私一人のためにみんなで協力してくれました。

私も、台詞を覚えたり、動きを練習するのが大変だったけど、家族も大変だったと思います。「歌舞伎」は、その公演にでる役者と公演を支える裏方、地域の方、そして、その家族みんなで作くり、できあがるのだと思います。だから、私を支えてくれる人に感謝をしなければならぬと思います。六年生になるまで、歌舞伎をやるチャンスがあるので、また挑戦したいです。